

説明的な文章を読むためのワークシート(例)

「森林のおくりもの 富山 和子」 (東京書籍 36ページ〜46ページ)

1 形式段落に①、②…と番号をつけましょう。段落はいくつありますか。

39

段落

2 それぞれの段落には、文がいくつありますか。

また、もっとも大切な文に線を引きましょう。

↓「中心文」と言います。

【中心文】文の役割は、**まずがき、説明、問、付け加え、まとめ、ながめ**です。
 「中心文」の役割をもう一度探しましょう。
 中心文の役割の文が段落の終わりにある場合は、**かぎかぎ**。



3 各形式段落に書かれている内容を短い文でまとめましょう。

↓「要点」と言います。

【中心文】「中心文」を「中心文」に書きかえよう。



段落	文の数	要点(例)
①	2	日本は、森の国、木の国である。
②	3	日本人は「木のくらし」を築いてきた。
③	1	日本人は大昔から木の家や道具でくらししてきた。
④	4	日本の古い街には、木の家や橋がある。
⑤	4	日本では日用品などが木で作られていた。
⑥	2	日本の山々は、大昔から木材の生産をしていた。
⑦	1	木材はどのように使われたのか。(部分の問い)
⑧	1	スギやヒノキの大木は、まっすぐで、神社や寺に使われた。
⑨	7	スギは、軽くてじょうぶですなおに割れ、いたるところに使われた。
⑩	2	ヒノキは、虫がつきにくくさりにくく雨風に強く、建物に使われた。
⑪	3	ケヤキは、かたくしまって木目が美しく、大黒柱やたんすなどになった。
⑫	1	カラマツやまつは、水に強く、水車や橋になった。
⑬	4	キリは、軽くはだざわりがよく、ことやげたやたんすになった。
⑭	6	キリは、燃えにくく、金庫の中に使われている。
⑮	3	木は、木材になっても生きています。

段落	文の数	要点
⑬	5	木材が生きている証に、水をすってすき間をなくす働きがある。
⑭	2	木は切られても長生きする。
⑮	8	法隆寺の木材は、最古の木造建築物だがわかかわかしい。
⑯	2	法隆寺の木材は樹齢二千年のヒノキである。
⑰	3	木材は紙にもなる。
⑱	5	紙は文字を記し人にものを伝える働きなどをする。
⑲	2	森林のおくりものに火がある。
⑳	2	火は、人類が長く使い続けてきた。
㉑	8	火は、燃料やそれ以外にも利用してきた。
㉒	2	炭やまきも、使い続けてきた
㉓	4	森林には別のおくりものがある。
㉔	5	川の水がなくならないのはなぜか(部分の問い)
㉕	5	森林は、地下水をつくる。
㉖	2	川の水がなくならないのは森林のおかげである。
㉗	2	山のしゃ面には、いつも土がある。
㉘	2	木の根は、土や岩石をとどめる。
㉙	3	森林は、山くずれや水害から平野を守る。
㉚	2	森林に守られて、水田は平野にひらかれた。
㉛	2	毎年米作りを続けられるのはなぜか。(部分の問い)
㉜	4	森林は、土と養分をおぎなう。
㉝	1	わたしたちは、森林の世話になり続けた。
㉞	4	森林は、大昔から植えついできたかけがえのない遺産である。
㉟	5	緑豊かな国土に生まれた幸せへの感謝と森林を育てるすばらしさ、とうとさを考えるべきである。

4 この文章のまとまりを表した、次の図表を完成させましょう。

構成	序論
①②③ ④⑤	日本人と「木のくらし」

構成	本論1 木材の利用	構成	本論2 森林の働き
⑥ ⑦(問い) ⑧⑨⑩⑪(答え) ⑫⑬⑭	木材の性質を生かした利用の仕方	⑮	森林の別のくくりもの
⑮⑯	切られても生き続ける木	⑰(問い) ⑱⑲(答え)	水を保つ働き
⑰⑱ ⑲	長生きする木	⑳(問い) ㉑㉒㉓(答え)	山くずれと水害から平野を守る働き
⑳㉑	紙の利用	㉔	土と養分をおぎなう働き
㉒㉓ ㉔㉕	燃料としての木の利用		

構成	結論
⑳㉑㉒	かけがえのない遺産である森林

5

「筆者は」の出だしで、本文を二百五十文字程度でまとめます。

続きを書きましょう。

↓ 説明文全体をまとめることを「要約」と言います。

【ヒント】要約は元のままをそのままにコピーして、要約しなさい。



て	さ	こ	わ	て	の	を	た	利	質	面	ら	(例)
い	、	と	た	く	で	お	り	用	を	で	日	筆
る	と	を	し	れ	あ	ぎ	、	す	生	受	本	者
。	う	感	た	た	る	な	根	る	か	け	人	は
（	と	謝	ち	か	。	っ	が	こ	し	て	は	、
二	さ	し	は	け	こ	た	土	と	て	い	そ	日
百	を	、	、	が	の	り	や	で	、	る	の	本
四	考	森	こ	え	森	す	岩	あ	木	と	森	は
十	え	林	の	の	林	る	石	る	材	い	林	豊
四	る	を	緑	な	は	森	を	。	や	う	か	か
字	べ	育	豊	い	、	林	か	も	紙	。	ら	な
）	き	て	か	遺	先	の	か	う	な	そ	お	森
	だ	る	な	産	祖	働	え	一	ど	の	く	の
	と	仕	国	で	た	き	た	つ	、	一	り	国
	筆	事	土	あ	ち	を	り	は	木	つ	も	で
	者	の	に	る	が	生	、	、	そ	は	の	あ
	は	す	生	。	植	か	土	水	の	、	を	り
	主	ば	ま	だ	え	し	や	を	も	木	二	、
	張	ら	れ	か	つ	た	養	保	の	の	つ	昔
	し	し	た	ら	い	も	分	っ	を	性	の	か

6 それぞれの文について、「事実」をのべた文か、「意見・考え」をのべた文か、ちがいが分かるように線を引いてみましょう。

【ヒント】文の始めや終わりの表現に着目しましょう。
「意見」の場合の表現は、「私の考えでは」「～と思います。」「～と考えます。」「～です。」「～です。また、内容にも注目しましょう。



7 筆者の一番言いたいことが書かれている文を見つけ、まとめてみましょう。

↓ 「要旨」を言います。

【ヒント】筆者の一番言いたいことは「意見」の中にあるものです。
その中で「一番言いたいことが書かれている」部分が多くなります。



8 筆者の一番言いたいことを受けて、あなたが思ったことを書きましょう。
自分の経験や知識などと結びつけて、「わたしは」「ぼくは」の出だしで、自分の考えを書きましょう。

--	--	--	--

9 友だちの考えを聞いて(読んで)、あなたが思ったことを書きましょう。

さんの考えを聞いて、わたしが思ったこと

--	--	--	--